

## (138) 岩手県陸前高田市の気仙隕石

岩手県の鉱山跡の資料調査中に、江戸時代末期（嘉永年代）に、現陸前高田市に隕石が落下した事実気がついた。隕石の現物は「気仙隕石」の銘が冠せられ、現存し、また、目撃証言その他も残っているとのこと。[気仙隕石] 自体は国立科学博物館に寄贈され、陸前高田市博物館にはそのレプリカが残っている。陸前高田市は著者の出身地の隣の市である。これなら是非とも帰省の折にでも、現地を訪問することに決めた。ただ、陸前高田市立博物館は東日本大震災で被災し、現在閉館中であるので、レプリカを見ることができない。

今年の正月に帰省をした。そして、現地を訪問した。帰省から戻ってから、国立科学博物館ならば、「気仙隕石」に出会えるだろうと思い、上野に出かけた。写真1に、展示されている「気仙隕石」のレプリカを示している。

隕石の落下場所は、陸前高田市の南南西方向に位置している長円寺の境内である。現地への経路は次の通りである。気仙沼方面より、45号線を北上してきたならば、宮城県と岩手県の県境から、約3km程進んで来ると、道路左手に、お寺が見える。長円寺である。入口の脇に駐車場があるので、駐車は容易である。現場はお寺の参道右手脇にある少し小さめの池である。

折角遠方まで出かけるので、「気仙隕石」の跡地だけの訪問では、物足りない。序でに訪問を勧める幾つかの近場を紹介しよう。観光地であった高田松原で、今回の津波でただ一本生き残った「奇跡の一本松」が残されている場所は近い。長円寺から車で5分程度か。また、北の方、それほど遠くない所に「玉山金山跡」もある。車で30分程度か。この金山跡については、本鉱山探査記で既報である。その項を参照すると良い。南の方に行くと、太平洋岸に「大理石海岸」がある。この場所も本探査記で既報である。同じくその項を参照すると良い。その他、少し遠方となるが、気仙地区当たりで幾つかの鉱山探査を行っている。本鉱山探査記で、それらを探して見たらよいであろう。

2015年1月訪問

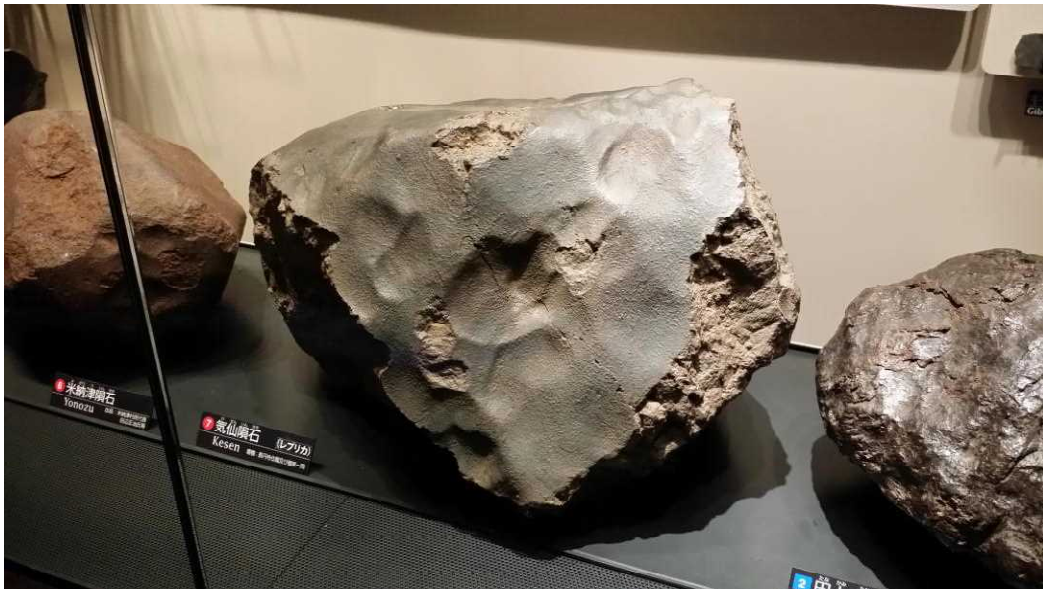


写真1 上野の国立科学博物館の日本館3階に展示されている「気仙隕石」のレプリカ。重さは100kg以上。

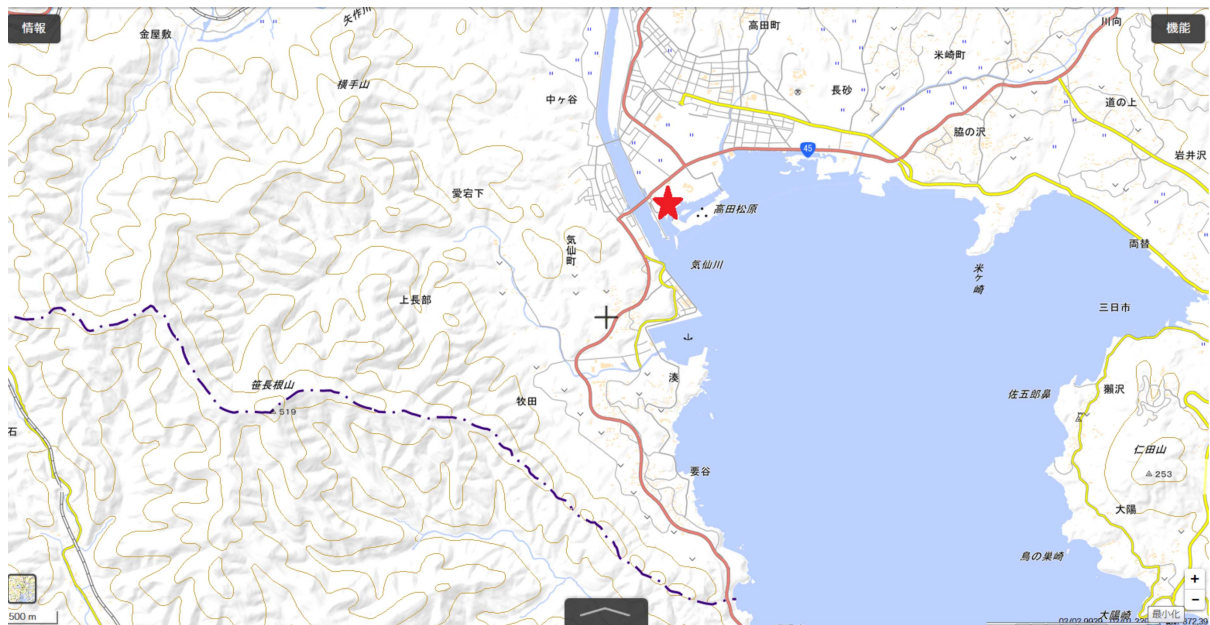


図1 国土地理院の地図サービスより複写掲載。中央の「+」印のところが、隕石落下地点である長円寺の位置。45号脇である。ついであるが、その北北東の「高田松原」跡には、何千本とあった松林の中で、先の津波でただ一本だけ生き残った「奇跡の一本松」がある。赤星の所である。訪問を勧める。



図2 図1の拡大図。中央に「卍」印があり、長円寺。その直ぐ右、45号の左側に、小さな池の図が見える。この箇所が、落下地点である。隕石によってできた穴、及びその掘り出しでできた穴に水が溜まってできた池とのこと。訪問時に会った、地元出身の青年の話では、池が隕石が落下した場所であると、学校で教わったとのこと。



## 隕石跡写真



写真1 長円寺入口にて撮影。右側に延びている45号の先は、陸前高田中心方向に至る。45号線を北上してくる。左手に長円寺がある。入口の左側に来客・参詣者用の駐車場がある。



写真2 45号の歩道から長円寺を見る。参道の右側に池がある。それに隣り合って、大小2基の石碑が立っている。



写真3 「天隕石降下之跡地」の記名がある。その左側に「顛末記」が。写真4に、碑文を大きくして掲載している。



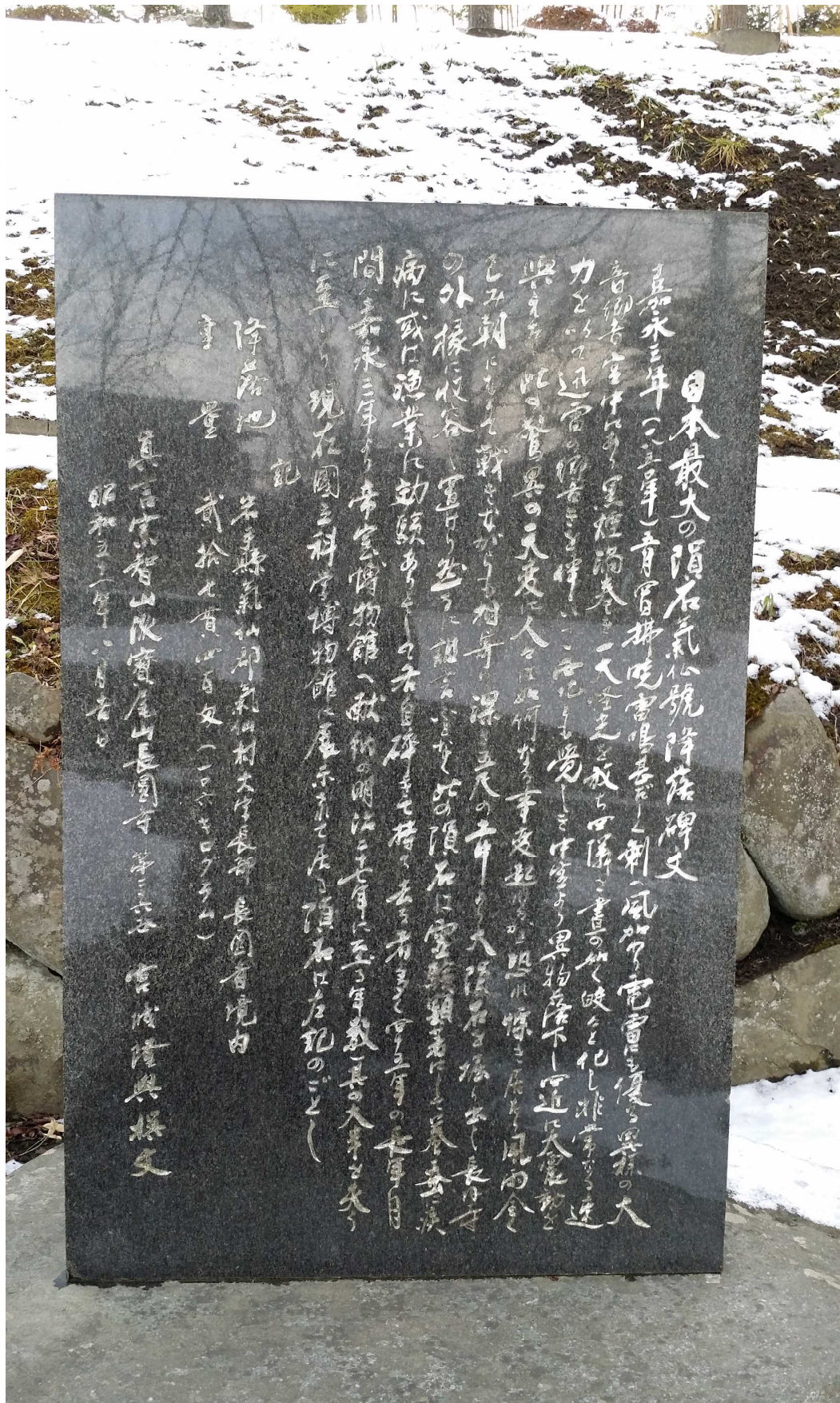


写真4 「気仙隕石」の顛末記。昭和52年に設立したものであるが、書体が草書体なのか、個人の独特な書体なのか、結構読みにくい。楷書体で書いて欲しかったと思うのは、私だけでは無いであろう。努力して顛末記を「解読」してみた。以下の通り。

ただし、



旧漢字は新漢字とした。  
縦書きを横書きとした。  
適宜に句読点を付けた。  
解読できない文字などは△印とした。

## 日本最大の隕石気仙号降落碑文

嘉永3年（1850年）5月4日払暁、雷鳴甚だしく、皎△△の風加わり、電雷にも優る異様の  
大音響△中にあり。黒煙渦巻き、一大怪光を放ち、四隣を昼の如く以白々と化し、非常なる速力を以て  
迅雷の響きを伴い、西北とも覚しき中空より異物落下し、四近に大震動を興した。此の驚異の天変に、  
人々は如何なる事変起こるかを恐れ、△き居たり。風雨全く△み、朝になりて戦さながらも村寄に深  
さ5尺の土中より、大落石を掘り出し、長円寺の外縁に収容し置けり。然るに誰言うとなく、この隕  
石に靈驗顯著にして、養蚕、疾病に、或いは漁業に効験ありとして、各自砕きて持ち去るもの多く、  
（45年の長年月間、嘉永3年より、帝室博物館へ献納の明治27年に至る年数）その大半を失うに  
至れり。

現在、国立科学博物館に展示されている隕石は下記のごとし。

### 記

降落地 岩手県気仙郡気仙村大字長部 長円寺境内  
重量 27貫400匁（106キログラム）

真言宗智山派寶尾山長円寺 第36世 宮城隆興△文

昭和53年8月吉日

### 参考資料



上野の国立科学博物館の地球館3階にて。日本に落下した隕石の展示部。三陸海岸付近に「気仙隕石」の名札が見える。結構、日本には沢山の隕石が落下し、現物が残っているのを知ったのは、意外であった。



上で示した写真の展示部の下部の部分。